

# 価値観を 認めあうことの大切さ

## —イマドキの若者から学んだこと—

Lucky Wagon 横山 聰史 (よこやま さとし)

(2024年新春号)

### ■若者たちの好むアニメ

急遽このページに寄稿することとなつた。通常はライターとして新車インプレッショなど担当しているが、最近感じていることを書いてみようと思う。それは世代による価値観の相違についてである。

竜門炭治郎（かまどたんじろう）・虎杖悠仁（いたどりゆうじ）・アシリパ。これら3つの名前をご存知だろうか。いずれもアニメに登場するキャラクターである。竜門炭治郎は大正時代を舞台に鬼との戦いを描いた「鬼滅の刃」の主人公。虎杖悠仁は現代を舞台に呪いから産まれた化け物との戦いを描く「呪術廻戦」の主人公。アシリパは実写版が公開され話題になつている、明治末期の北海道を舞台とした金塊をめぐる物語「ゴールデンカムイ」のヒロインで、アイヌの少女である。私は還暦間近、元々こうした類のアニメに興味はなかつたのだが、なぜこんなことを書くのか。とある専門学校の非常勤講師を務めているため19～20歳の学生たちと日常的に会話をしており、授業中に彼らから教えられたのだ。現代の

若者が面白いと感じるアニメはどんなものか興味本位で見始めたところ、それらにすっかり魅了され、ついには映画館にまで足を運んでしまった。そこである明確な違い私が幼少期に夢中になったテレビ番組といえばウルトラマンと仮面ライダーである。それらと現代アニメを比較して明確に異なる点がある。昔は勸善懲悪だった。ウルトラマンは人類を守るために奮闘する正義の味方。敵対するのは地球に昔から存在していた怪獣。彼らは地球を破壊したり我がものにせんと暴れまわる。ウルトラマンは苦戦しつつも人類と協調して悪を倒すというのがお決まりのストーリーだったが、それでは現代のアニメはどうか。そこには完全なる正義、完全なる悪は存在しない。「鬼滅の刃」で言えば、敵である鬼とは人々人間である。残酷な運命に翻弄された結果、他人や世の中への恨みや怒りを募らせ、鬼の始祖（ラスボス）によって鬼に替えられてしまった人たちである。そして彼ら一人ひとりの生き立ちを丁寧に描写するの

で、「こんな過酷な環境にいたら、鬼になつても不思議ではない」というように感情移入してしまう。彼らは散り行く間際に人間時代を思い出し、鬼となつてしまつたことを自戒しながら消えていく。ウルトラマンにしても、平成シリーズからは「悪のウルトラマン」が登場し、どうして闇落ちしたのかという過程が描かれている。こうした描写は、実社会に置き換えてみれば必ずしも物価、流行、慣習などが全く違うから、我ら昭和世代と彼らは地球を破壊したり我がものにせんと暴れまわる。ウルトラマンは苦戦しつつも人類と協調して悪を倒すというのがお決まりのストーリーだったが、それでは現代のアニメはどうか。そこには完全なる正義、完全なる悪は存在しない。「鬼滅の刃」で言えば、敵である鬼とは人々人間である。残酷な運命に翻弄された結果、他人や世の中への恨みや怒りを募らせ、鬼の始祖（ラスボス）によって鬼に替えられてしまった人たちである。そして彼ら一人ひとりの生き立ちを丁寧に描写するの

■異なる価値観でも、認め合うことはできる

若い世代はこうした「コンテンツ」をぐく自然に受け入れており、生まれた頃からパソコン、スマートフォンは当たり前に存在していた。我々の時代にウイキペディアはなかつたから、分からることは図書館に行つたり専門書を買って調べたし、その道にやたらと詳しい先輩がいて教えてくれたりした。ビデオレコーダーも存在せず、観たいテレビ番組の開始時刻前にはテレビ前に陣取つた。若者に訊いてみると驚くべきことに90%以上が「テレビは観ない」といふ。勉学やアルバイトに忙しい彼らは時間に束縛されるテレビを敬遠し、TV everywhereのよなオンデマンド型メディアを重宝する。メディア以外にも物価、流行、慣習などが全く違うから、我ら昭和世代と彼らから得るのはたくさんある。その代わり、我々世代の知識や体験を彼らに伝え、マナー・礼儀・伝統などを継承していく。つまり良い／悪い若者たちの価値観が同じはずがない。だからこそ我らが若者から得るのはたくさんある。その代わり、我々世代の人にも必ず理由が存在し、時からだ。罪を犯してしまった人にも必ず理由が存在し、時としてもある。